

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念の中に「地域」という言葉をいれ、今まで以上に地域に基づいたサービスを提供できるように努めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		現状通り取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		現状通り取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		現状通り取り組むと同時に、町内の行事にも積極的に参加し、利用者様が安心して生活できる環境を整えていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		保育園だけではなく、自治会や地域の行事にも積極的に参加していきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		受身ではなく、事業所でも、常にアンテナを張り、地域に貢献できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に満足することなく、外部評価を真摯に受け止め、より良い活動ができるよう話し合い実行している。前回の外部評価の結果から、理念を再検討し、「地域密着」という意識を認識する為、理念の中に「地域の中で」という言葉を加え、地域に密着し、安心して生活ができるよう取り組もうという意識を図っている。		外部評価を受け、改めるべき所はすぐに改善し、今以上に よりよいグループホームを目指し、日々向上していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこの意見をサービス向上 に活かしている	運営推進会議では、日常の活動報告、利用者の現状報告を 行い、問題点などある場合は意見交換したり、外部評価や実 地指導の結果報告、また、それに対する対応を報告し、参加 者から意見を頂き、サービスの向上に活かしている。		引き続き、運営推進会議で、参加者から意見を頂き、サー ビスの向上に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町村とともに サービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受給されている方の場合、保護課と連携し、問題 が発生した時には相談し、解決また、サービスの向上につな げていくようにしている。		以前は、講師としてお招きした事があるので、今後も研修な どを通じて交流し、サービスの向上につなげていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人には それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、研修 会があれば参加し、内部研修にて皆で学ぶ機会を持ち、そ の後、資料を回覧し、周知徹底に努めている。利用者様のご 家族には必要と思われる場合に助言している。生活保護受 給者の方の場合には、ケースワーカーに相談している。利用 者様の中には、実際に利用されている方もおられる。		外部研修の内容を持ち帰り、内部研修で研修報告を行 い、皆で学ぶ機会を持ち、全職員のスキルアップにつなげ ている。また、必要と思われる利用者様や見学にこられた 方には、情報提供を行い、活用できるように支援している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内で虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、内部研修で皆で学ぶ機会を持ち、その 後資料を回覧し、周知徹底に努めている。また、職員間でコ ミュニケーションがとりやすい職場作りに努めており、日ごろ から虐待を見過ごすことがないように注意し、防止に努めて いる。		研修には積極的に参加し、皆で学ぶ機会を持ち、スキル アップにつなげていきたい。また、引き続き、相互にコミュニ ケーションのとりやすい職場作りに努め、職員相互に意見 の言いやすい環境にし、日ごろから虐待が予防できるよう に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家 族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、必ず文書と口頭で納得していただけるよう 説明している。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それら を運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、直接言いにくいことは苦情箱に入れ てもらっている。また、話しやすい雰囲気作りに努めて おり、直接職員に言われる場合もある。そのような場合は、話 を聞き迅速な対応を心掛けている。運営推進会議では、利用 者様、ご家族様代表にも毎回参加していただき、意見や苦情 を話せる機会を設けている。		介護サービス相談員を受け入れていなかったが、本年度 は受け入れることができるように整備していきたい。また、利 用者様の意見、不満、苦情に対し、迅速な対応を、引き続 き心掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「グループホーム便り」を発行し、日々の生活などを報告している。健康状態については、担当職員が状態報告書を詳細に記入し、グループホーム便りと一緒にご家族に渡している。急激に変化があった場合は、直接ご家族へ電話し、状態を報告し、把握していただいている。職員の移動に関しては、来所時に伝えている。金銭管理についても、毎月報告書と領収書を一緒にご家族に渡している。		現状通り取り組んでいきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情箱を設置している。また、相談窓口を設け、担当者が家族からの不満や要望を聞き、それらを運営に反映させるよう心掛けている。問題があった場合等は運営推進会議などで報告するようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者や各ユニットリーダーが運営に関する職員の意見を聞き、その都度、管理者に伝え、話し合いを設け、運営に反映させている。		現状通り取り組んでいきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	様々な状況に応じて勤務の調整を行い、柔軟な対応を心掛けており、利用者様やご家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員の関係を重視した職員配置を行っている。新しく職員が入る場合は、利用者へ紹介し、利用者が混乱しないように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員の募集、採用にあたっては、性別・年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員が、その能力を十分に発揮し、生き生きと勤務できるよう、風通しのよい職場作りにも力を入れている。また、研修のお知らせをし、自由に参加できる環境を整えることで、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加し、内部研修で皆で学ぶ機会を持ち、その後資料を回覧し、周知徹底に努めている。		今まで以上に積極的に取り組んでいきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修に参加を促し、技術知識の向上に努めている。また、参加できなかった職員には参加した職員が内部研修で報告し、資料を回覧することで、周知徹底に努めている。日常の業務でも、相互に注意しあい、学べるよう、職員間のコミュニケーションが取りやすい風通しの良い職場環境が維持できるよう配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、同業者と交流の機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		引き続き、グループホーム協議会に参加し、研修などに参加し、同業者と交流する機会を持ち、情報を得ることで、サービスの向上につなげている。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減を目的とした職員同士の交流会を行っている。また、運営者が食事を開催し、話しやすい環境づくりを計画している。		現状通り取り組んでいきたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりに担当の利用者様を決め、責任をもって仕事に取り組めるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面接に行き、ゆっくりと話しを聞き、困っていること、不安なこと、求めていること等に対し、本人が入居する前までにできる限り環境を整えることができるように努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時、問題点を聞き相談にのり、問題に対しての解決策を話し合い、安心して生活できることを伝えている。また、入居後も問題があれば相談していただき、すぐに問題解決の話し合いができることも伝えている。		現状通り取り組んでいきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話し合いの上、最もニーズのある支援、サービスを考慮し、対応している。		現状通り取り組んでいきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に少しでも職員になれていただくよう、面接に行った際にゆっくりと話しを聞くように心掛けている。また、入居前にホームに見学に来ていただくなど、本人や家族などと相談しながら本人が混乱しないように時間を工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段、何気ない会話より、本人の興味や得意なこと、できることを探し、一緒にできることはないか等、ミーティング等のときに話し合い実行している。	今までと同様、利用者様の今できることをみつけ、実行できるように援助していきたい。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の行事などで、ご家族にも参加していただける行事を計画し、年に数回実行している。その中で、職員と利用者様の現状を話したり、一緒に車椅子介助などをすることで、時間を共有し、楽しんでいただけるよう工夫している。また、病院受診やお散歩など、ご家族と一緒に行っていただくなど、関係が途絶えることなく利用者様と一緒に支えている。	現状通り取り組んでいきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に参加していただいたり、毎月のグループホーム新聞や、日常生活の状態報告書をご家族に渡し、日常生活を知っていただくように努めている。また、暑中お見舞いや年賀状をだし、家族間の絆がなくなるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともとホームの近所に住んでおられた方が多く、旦過市場や近隣のお店に顔なじみの方が多いため、関係が途絶えないように定期的に買い物や散歩に行っている。	現状通り取り組んでいきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況を見て、職員が間に入り、会話を盛り上げ、笑顔を大切に接し、楽しく、マイペースな生活が送れるように努めている。	利用者様の精神状態に個別に対応しており、不穏状態にある方については特に注意して見守りし、トラブルが発生しないよう、事前に職員が介入するようにしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所で会ったら話しかけ、様子を伺って気遣い、関係がなくなるないように大切にしている。また、在宅復帰されても、再度居室に空きがあれば入居できることを伝え、空きが無い場合でも、状況に応じて相談を受け、ニーズに応じた関係機関を紹介するなど、本人家族が満足したサービスが提供できるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望する生活の実現に向けて、生活暦や日々の会話の中からその内容の理解に努め、意向にそえるよう心掛けている。また、困難な場合は、それぞれユニットミーティング等で話し合い、本人の意向に近づけるよう努めている。	現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日々の会話の中から生活層を理解し、また、家族からの情報により把握に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	規則正しく、その人らしく生活できるよう、心身の状態を理解し、日々の変化などから現状把握に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング前に家族より話しを聞き、ユニットミーティングでモニタリングを行い、目標を確認している。会議の内容をふまえ、計画作成担当者が介護計画書を作成している。		現状通り取り組んでいきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、短期目標が達成できているか確認している。達成された場合は、新たに目標をたて新しく計画を作成している。状態が急変し、計画を再考する必要がある場合は、ユニットミーティングで全員で話し合い、計画を見直している。		現状通り取り組んでいきたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の様式を、全体ミーティングで話し合い、より細かい配慮を行い利用者様の一日の様子が一目でわかるように改善した。介護記録やモニタリングを通じ、現状把握に努め、介護計画を定期的に見直している。		介護記録の様式を改善し、日々の様子、ケアの状態をその日の職員が把握し、気づきや工夫などは朝夕の申し送り時に話し合い、また、グループホーム日誌などにも記入している。休みの職員には、必ず口頭で伝えるか、申し送りノートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院、デイケア、介護支援センターが併設しており、本人や家族の要望に応じて相談し、支援している。		現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	子どもが好きな利用者様が多いので、近隣の保育園と交流し、子どもたちのふれあいの時間をつくっている。また、消防署の方に来ていただき、併設のデイケアにて利用者様や地域の方と一緒に救命講習をうけた。		消防署の方を講師としてお招きし、救命講習を開催した。今後も継続していきたい。また、必要に応じてボランティアも積極的に受け入れ、支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状維持やリラクゼーションを目的として、訪問マッサージを利用したり、歩行状態が悪く精神的に不安定な方には、訪問歯科や併設病院院長の往診を受けていただいている。利用に際しては、必要な情報を事業所へ提供したり、ご家族へ説明するなどの支援を行っている。		今後は、現在受け入れているサービスに加え、訪問理美容サービスを受け入れ、より利用者様の意向やニーズに対応できるように支援していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターの方との意見交換や助言を頂き、それをプランに反映させている。利用者様の総合的なケアについて相談できるようになった。また、地域包括支援センターの方からの紹介で入居された利用者様もおられる。		現状通り取り組んでいきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特にかかりつけ医の指定がない利用者様は、併設の医院に定期的に家族もしくは職員が付き添い受診している。他の病院にかかりつけ医がいる場合は、ご家族より受診結果を聞き、介護に取り入れている。内科以外の場合は、かかりつけ医にその病状にあった病院を紹介していただき、家族に連絡し、受診するようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて協力医療機関を定期的に受診し、その都度、助言指導をうけ、認知症の悪化防止に努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の看護職員と、日々利用者様の状態を相談し、日常の健康管理を支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院した時は、病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、状態把握に努め、できるだけ早く退院できるように努めている。		現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>急変時の指定書を作成し、ご家族に記入していただき、利用者様、ご家族、医師と話し合い、方針を確認している。ホームでは、24時間医療体制が整っていない為、常時医療行為が必要になった場合の受け入れは現状としては難しい。</p>		<p>入居時に、急変時における指定書を記入していただき、方針を明確にすることで、急変時の対応が迅速にできる体制を整備した。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>各々利用者様が重度化してきた場合、かかりつけ医と話し合い、状態を把握してできること、できない事を見極め、職員が一丸となって支援するようにしている。また、今後の変化に備えて話し合いの場を持ち、検討、準備している。</p>		<p>入居時に、急変時における指定書を記入していただいている。終末期におられる利用者様の受け入れについて関係者間で話し合った。できる限り指定書に従って意見を尊重したいが、24時間の医療体制が整っていないことや、ご家族の控え室が無いなど、ハード面においても整っていない為、現段階では受け入れが難しい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事前に退去後に関わるケア関係者へ情報提供を行い、退去前に環境を整え、できる限りダメージを最小限に止めることができるよう努めている。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いに気をつけ、利用者様に対して尊敬の心を持ち、話すように心掛けている。権利擁護の勉強会の中で、尊厳についても職員全体で勉強した。言葉に気を配り、プライバシーを守るように心掛けている。</p>		<p>利用者様に危険が及ぶ時は、つい強い口調になることはあるが、日常的には、根気良く優しい口調で話すように心掛けている。また、なれなれしい対応になってしまうこともあるので、職員同士その都度注意し、改めるよう心掛けている。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様が自己決定できるよう、声かけし、自分の意思が表出できるように支援している。</p>		<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の職員の人数で多少異なるが、「今日は何がしたい?」と尋ね、散歩やレクリエーションなど、利用者様それぞれのペースにあった生活でゆっくり楽しすぐしていただけるよう、心を開いた会話と支援をしている。</p>		<p>レクリエーションなどの参加は声かけし、拒否した場合は無理強いせず、見守りをしている。また、個性を重視しており、できることやしたいことを確認しながら支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室がホームの近くにあり、御希望の利用者様は職員が付き添い送迎している。日常生活の中での身だしなみには気をつけ、毎日のひげそりや外出時のお化粧品など、自由にできるよう声かけ、配慮している。	近くの理容室を利用されている方は、引き続きそのまま利用していただき、移動が困難な方へは現在職員が散髪している。今後は訪問理美容サービスを取り入れていく方針で、今まで以上におしゃれに関心を持っていただきたいと思う。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方その方にあった形態にしたり、盛り付けを工夫することでおいしく召し上がっていただけるよう配慮している。テーブル拭きやおやつと一緒に配ったり、また、おやつを手作りする日は、一緒に作っていただいている。	テーブル拭きや食器洗いなど、利用者様の中には好きな方もおられ、体調を見ながら一緒にしている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様のご家族が面会時に持ってこられたり、また、職員と一緒に買い物に行った際に購入し、召し上がっていただき、楽しみ、満足されている。	現状通り取り組んでいきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを理解し、気持ちよい排泄の支援に努めている。	排泄研修に参加し、情報を持ち帰り、ミーティングで話し合い、各利用者様の状態にあった下着を使っていたくようにしている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、現在火曜日と金曜日に決めており、時間についてはその日の予定や体調にあわせている。以前より週3回にできないか検討しているが、利用者様の混乱や安全な入浴サービスを提供することについて考えると、早急な対応は困難である。また、利用者様も重度化してきており、現状が精一杯の状況。しかし、必要に応じては、シャワー浴をしていただいたり、予備日として土曜日を設けている。	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気持ちの良い休息、眠りの為、状況に応じた室温調整や寝具の清潔に努め、また、日々適度な運動を心掛けている。	現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味など理解し、生き生きと生活できるような場面作りを心掛けている。		日々、利用者様の言動に気をつけ、その中から何か支援できることはないか探している。見つかったときにはできる限り支援するようにしている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩に行った時の買い物や大型スーパーへの買い物ツアーにて、好きなものを買っていただいている。また、購入時は、お財布から本人にお金を出していただくように心掛け、金銭感覚がなくなるように支援している。また、お小遣いをご家族からホームがお預かりする場合は、毎月金銭管理報告書を渡し、収支をはっきりすることで、ご家族にも安心していただけるように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、天候の良い日はできる限り外出を心掛けて支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事で普段行くことができない所へ外出している。また、行事の際にご家族へ声かけし、一緒に楽しんでいただけるよう配慮している。個別の対応としては、ドライブに行ったり、昔かよっていた理容室へ行くなど、外出支援をしている。		毎月の行事にご家族が参加できる機会を増やし、一緒に過ごす時間を増やしたい。また、個別の対応も増やしていきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときには、2階の公衆電話を利用いただいている。利用する場合は、職員が支援している。年賀状や手紙が届いた場合、御希望に応じて返事を書いていただいている。		現状通り取り組んでいきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるグループホームを目指しており、玄関前に植物を植えたり、気持ちの良い挨拶を心掛けており、明るい雰囲気作りに努めている。		特に ユニットは、グループホームの玄関に面おり、来訪者が見えた場合は、職員全員、笑顔で気持ちの良い挨拶を心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、外部研修に参加し、全員で勉強会を開き、身体拘束についての理解に努めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、身体拘束はしていない。		勉強会を定期的開催し、身体拘束について正しく理解し、引き続き、身体拘束ゼロを継続していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは、日中玄関には鍵はかけておらず、自由に開け閉めができるようになっている。しかし、ホームの周囲は道が狭く、車の通りも多いので、利用者様の安全の為、外出時は、ご家族もしくは職員が必ず同行するようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の所在を確認し、安全に気を配っている。また、地域の方と顔なじみになったり、警察に協力していただき、安全に生活していただけるよう配慮している。夜間は基本的に3時間おきに巡視しているが、転倒予防の為、離床センサーやフットセンサーを利用されている方もおられ、起きてこれたときにすぐ対応できるようにしている。		引き続き、警察や地域の方にも協力していただき、安全に生活していただけるよう、配慮していきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関しては、置く場所を決めており、また、各利用者様担当の職員が環境整備と一緒に、安全に過ごすことができるように一人ひとりのレベルに合わせて危険を取り除いている。		現状通り取り組んでいきたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事故のリスクについてミーティング等で話し合うと共に、専門職から助言をもらい、事故防止に努めている。また、ヒヤリハット報告書を記入し、職員全員で回覧し、対策を考えることで、事故を未然に防ぐことができるよう努めている。		転倒、窒息、誤嚥、などの事故を防ぐ為の知識を学び、職員全員がレベルアップし、事故予防に努めていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方に来ていただき、心臓マッサージやAEDの使用方法などの講習を行い、急変や事故発生時に備えている。		今後も継続していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練を実施し、昼夜問わず、入居者が避難できるように訓練している。また、買い物や散歩を通じて、近隣の方とも顔なじみになるよう心掛けている。		現状通り取り組むことはもちろん、消防署の方との訓練も行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の面会時に昼夜の状態を話し、起こりうるリスクについても話をしている。また、面会時以外でも、特別な変化が生じた場合には連絡し、今後考えられるリスクについて説明している。リスクへの対応については、ご家族にも相談し、利用者様に抑圧感の無い生活をしていただけるよう心掛けている。		現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変など、毎日の日誌に記録し、また、朝・夕の申し送り時に情報を共有するようにし、利用者様の状態変化に早期に対応できるように努め、かかりつけ医に報告している。	現状通り取り組んでいきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に内服薬について記載されており、理解している。状態の変化、処方など変わった場合、申し送りをし、連絡ノートに記載し、職員に伝わるようにしている。	薬が変更になった場合は、その都度医院に確認し、理解に努めている。また、毎月の担当者が薬の処方状況を確認している。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の声かけや運動、食事内容を工夫し、排便チェックをしている。便秘が続く時は院長に相談し、薬が処方され、排便を促している。	現状通り取り組んでいきたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた口腔ケアの方法で行っている。また、必要な方は、歯科医と相談の上行うようにしている。	現状通り取り組んでいきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回把握し、チェック表に記入している。食事の量や形態も個別に対応し、盛り付けを工夫するなど、おいしく召し上がっていただけるよう工夫している。	好き嫌いなどについては、その時その時の対応で、盛り付けを工夫したり、別のものを提供して、対応している。また、医師との相談の上、栄養補助食品にて対応する場合もある。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作り、手洗い、うがいに注意し、実行している。また、トイレや手洗い場に手洗い方法や汚染時の対処法をいつでも目につくところに貼っている。感染予防のため、全館ペーパータオルを使用している。	現状通り取り組んでいきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や食材については、衛生管理を徹底し、食材は旬な素材で新鮮なものを使用している。	現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82 (1)居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に植木や花を植え、明るく親しみやすいようにしている。	現状通り取り組んでいきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に雛人形や五月人形、貼り絵など、季節に応じた飾り物を置いて季節感を出している。また、共用部分の家具は、木目調で視覚的にも優しく、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	現状通り取り組んでいきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い中にも、ソファーなどを利用して、少しでも距離を置くことができる場所作りに努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを居室で使用していただき、居心地のよい環境の提供に努めている。また、ご家族に、入居前にできるだけ居室の環境を整えていただき、利用者様が出来るだけ早くホームの生活に溶け込むことができるように努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においや空気がこもらないように、換気や空気清浄機を使用している。また、湿度、温度調整も行い、快適な環境の中で生活していただいている。	現状通り取り組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる場所に手すりをつけ、危険と思われる場所には物の配置に気を配り、安全に努めている。居室は、利用者様に応じた対応をしており、椅子など歩行時の支えになるものをおき、できる限り自立した生活ができるよう工夫している。	現状通り取り組んでいきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様一人ひとり、個別に対応しており、能力に応じ、混乱しないように接している。また、排泄などの失敗を防ぐ為、その方に応じた誘導を行い、できる限り失敗しないように対応している。混乱や失敗が生じたときには、プライドに配慮しながら声かけしている。	現状通り取り組んでいきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者様と一緒に建物の玄関周りの空間を利用し、季節に応じた草花を植え替えたり、できる方には水やりを手伝っていただいている。	現状通り取り組んでいきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

街中であるという利点を活かし、勝山公園や旦過市場など、自由に地域資源を利用させていただき、楽しんでいただいている。また、小倉祇園やわっしょい百万夏祭りなど地域の祭りには沿道へ見学に行き、太鼓の実演や花火を楽しんでいただくなど、毎年好評の行事となっている。

職員と利用者様とが和気藹々と和やかな雰囲気毎日暮らしている。

これからも、アットホームな雰囲気ですらでも楽しくみんなで暮らしていけるように支援していきたい。